

民族の名前

その呪力について考える

2018 6月16日(土) 13:30~15:00

愛知大学豊橋校舎 研究館 第1・2会議室

講師 大澤真幸氏

聴講無料 定員 50名

申込不要 当日先着順

どうして、それぞれの民族は名前をもつのか
名前が、民族やその他の共同体の形成に対してどのような規定力をもったのか
名前が、共同体のどのような特性を反映しているのか
名前は、民族の自己意識にどのような影響を与えたのか
前近代の民族の名前と近代以降の国民の名前との間には、どのような連続性と断絶があるのか

18世紀コンバウン王国時代の鹿院に描かれた101人種図より

交通アクセス

豊橋鉄道渥美線

「愛知大学前」下車すぐ

※ご来場の方は公共交通機関をご利用ください。



連絡先 愛知大学人文社会学研究所

〒441-8522 豊橋市町畑町 1-1

T E L : 0532-47-4167

E-Mail : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

U R L : <http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>



■ プロフィール

1958年長野県松本市生まれ。

東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得満期退学。社会学博士。千葉大学文学部助教授、京都大学大学院人間・環境学研究科教授を歴任。

現在、月刊個人思想誌『大澤真幸 THINKING「O」』刊行中、「群像」誌上で評論「〈世界史〉の哲学」を連載中

■ 業績

『サブカルルの想像力は資本主義を超えるか』角川書店、2018年、『憎悪と愛の哲学』角川書店、2017年、『〈世界史〉の哲学』（古代篇、中世篇、東洋篇、イスラーム篇、近世篇）講談社、2011～2017年、『日本史のなぞ』朝日新書、2016年、『可能なる革命』太田出版、2016年、『自由という牢獄』岩波書店、2015年、『夢よりも深い覚醒へ』岩波新書、2012年

『社会は絶えず夢を見ている』朝日出版、2011年、『不可能性の時代』岩波新書、2008年

『ナショナリズムの由来』講談社、2007年

講演概要

名前にはふしぎな力がある。名前を覚えていてもらうと、何か特別な、認められているという感覚を得る。『君の名は。』や『デスノート』のようなアニメ、マンガは、名前のこうした力に注目した作品だった。

この講演では、個人ではなく民族の名前に注目して、名前の作用について考える。たとえば、日本列島の住民はかつて「倭」と呼ばれ、ある時期から「日本」と名乗るようになるのだが、この名前の交替は、何らかの大きな社会の変容に対応している。

どうして、それぞれの民族は名前をもつのか。名前が、民族やその他の共同体の形成に対してどのような規定力をもったのか。名前が、共同体のどのような特性を反映しているのか。名前は、民族の自己意識にどのような影響を与えたのか。前近代の民族の名前と（近代以降の）国民の名前との間には、どのような連続性と断絶とがあるのか。

こうした問題について、いくつかの具体的な歴史的な事実を参照しつつ、同時に名前についての言語哲学の説をも活用しながら、論ずる。